

## 2017年度 AAA9月研修(第8回) セッションC午前(協働スキル研修)

今年のAAA9月研修、2日目のセッションCは、午前中、最初にスペシャルトークとして、AAA研究会会員でもあるソーシャルワーカーの芦沢さんが、「地域で遭遇する精神保健の問題への対応」の話しをしました。

その後、副田が「機関間協働スキル～高齢者虐待事例を通して学ぶ～」と題してお話しをし、午後は、長沼さんによるケースカンファレンス研修を行いました。

今日は、副田が行った話の要点と、参加者のみなさまからいただいたご感想をいくつかをご紹介します。

### 「機関間協働スキル～高齢者虐待事例を通して学ぶ～」のいくつかのポイント：

- インターエージェンシーの時代：今後ますます機関間協働、多機関協働の時代に
- その背景：①慢性疾患患者増大 ⇒ 地域における複数種類の医療サービス・介護サービスの切れ目のない一体的提供の必要性 = 「統合ケア」/「地域包括ケア」、②格差社会の拡大、家族規模・機能の変化等 ⇒ 分野横断的ニーズをもつ複雑事例、「困難事例」等の増加 ⇒ 分野横断的/包括的・継続的支援の提供の必要性、社会的孤立予防の必要性 = 「地域共生社会」
- 機関間協働の実際は、多職種チーム、多機関チームによる協働実践
- 多職種チーム：退院支援チーム、在宅療養支援チーム、在宅ケアチーム  
多機関チーム：「支援困難事例対応チーム」「虐待対応チーム」等
- 機関間協働スキル：①多機関チームが機能するための条件整備スキル、②多機関チームづくりのためのスキル、③多機関チームにおけるチームワーク・スキル
- チームワーク・スキルのうちのコミュニケーション・スキル＝情報整理の上で簡潔に報告、ワンダウンポジション、コンプリメント、役割曖昧化と重なりへの対応

### いただいた感想の中から：

- ① 機関間協働スキルについては改めてネットワーク構築上で大変大切なスキルであると思いました。
- ② 多職種チームと多機関チームの区別について、もう少し聞きたかった。ケアマネジャーの仕事では他職種＝他法人（＝他機関？）なので、あまり多機関ということ考えたことがないので。
- ③ ワンダウンポジションは職場の中でもしっかり根付き、いい雰囲気になっています。こういった視点が福祉業界、ひいては日本中、世界中に広まれば、

- ④ ” 短く簡潔に伝える” ” 依頼内容を伝える” ” コンプリメント” が印象に残った。  
日々の中で心がけていきたい。
- ⑤ 多機関で話し合うことが増えているが、改めて、チームのコミュニケーションが大切であり、あたり前だが、日々、自覚しながら対応できていなかった部分を確認できた
- ⑥ 職種、機関など、その方本人とかかわり方をもつ支援者がより多くつながること、支え手が多い方が良いと思っている。その中でご本人の意思を大切にすることかと考えます。
- ⑦ 支援を行っていく上で、必ず、ケース会議を開催してもらっている。一つの機関で何とかできることではないので、みんなで支えていくという対応を作っていくことの重要性を再確認した。
- ⑧ 機関間協働という言葉からとても難解な印象をもっていたところ、ワンダウンポジション等、少し相手の立場に立ったり、思いやったりすることで、実現可能な方法を学べて、是非実践していきたいと考えました。相手との信頼が大事との言葉がずっしりきました。
- ⑨ 機関も複雑な機構、複合的な機構を持ったものが多あります。保健福祉事務所（保健所＋福祉事務所）併設型の介護事業所など機関の中のコンプライアンス（＝内部統制の意味）が弱いところもありインターエージェンシーワーキング展開上の課題になるかもしれません。
- ⑩ 少し講義時間がつめこみすぎだと思います。もう少しじっくりとお話を聞き、ワークにとりくめればと思います。

みなさまからは好意的な感想をお聞きすることができて、ほっとしておりますが、自分自身では、概説がやや長すぎ、スキル研修としては不十分なものだったと反省しております。来年度以降、バージョンアップを図りたいと思います。

②のご感想については、後日また、このMLでご説明できればと思います。

⑨のご指摘、ありがとうございます。そうしたことも考えてみたいと思います。

⑩のご指摘、来年度以降の研修を企画する際、参考にさせていただきます。

ありがとうございました。

副田あけみ